

さいたま市教組新聞

さいたま市
教職員組合
TEL 641-6763
FAX 648-3567
e-mail saitama@kyouiku-net.org
URL http://www2.plala.or.jp/saitama-sikyousou/
2008.4.21(月)
No.138

職員の勤務時間の管理徹底は「割振変更簿」で

改正労安法で使用者（校長）は「職員の始業・終業時刻の確認・記録」の責任問われる

労働安全衛生法が改正され、今年の四月から「常時五〇人未満の職場」でも、週四〇時間を超える労働が一カ月当たり一〇〇時間を超え、疲労の蓄積が認められるときは、労働者（教職員）の申し出を受けて、（校長は）医師による面接指導を行うことが義務づけられました。また、同様に月八〇時間を超え、疲労の蓄積が認められ、又は健康上の不安のある場合は、医師の面接指導を実施するか、面接指導に準ずる措置を講じなければなりません。そして、教職員の始業・終業時刻を確認し、記録することが必要になります。記録の方法は（ア）使用者が現認し記録する（イ）タイムカード、ICカード等の客観的な記録を基礎とする、と示しています。

この背景は、長時間過密労働が蔓延し過労死が増え



ていること、メンタル不全が非常に増えていることがあります。昨年、全国では年間四〇〇〇人を超える教職員が精神疾患で休職しています。

この三月末、さいたま市で定年退職した教職員は一一二人（管理職を除いた教諭等は七八人）でしたが、定年前に退職した教職員は九三人（同八八人）で、今にも定年で辞めた人の数に並びそうです。これは非常にショックな数字です。

親の介護等で辞める人はいます。しかし、「これ以上続けられない」という人が年々増えてい

す。このままで良いはずがありません。割振変更簿が使用されて一年が経過します。週休日に勤務した場合の割り振り変更とともに、平日の時間外勤務を記録し、いわゆる時間調整をしっかりとるためにも使用するのが割振変更簿です。市教委は「適切に使用し

ていない学校には指導する」としています。問題ある学校は改善させましょう。

「仕方がないから」から「仕方がある」へ みんなで道を切り拓きましょう

執行委員長 山本 悠子

四月八日。明るい陽をあびてとはいきませんでした。冷たい雨にも負けず、子どもたちは「新しい学年・新しいクラスでがんばるぞ」「今まで失敗やまちがいもあつたけど、ちよつとは直してみよう」と、新たな気持ちで登校してきました。そして、子どもたちのなよりの楽しみは「今年はどうな先生かな？」ということだったのではでしょうか。子どもたちのこの期待にか。子どもたちのこの期待にこたえるために、腹の立つことやつらいこともあるけれど、今年も仲間といっしょにがんばろうと思えました。

さて、《友だちとなかよく、みんなでのびていきたい》。こんな、子どもたちや教職員・保護者の願いを打ち砕くように、今年も四月二二日に『全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）』が行なわれようとしています。足立区をはじめ各地での不正、過去問の練習など、さまざまな問題が起こっているのに、さいたま市教育委員会は十分な話し合いもせず、『教育長決裁』の一言で、参加を決めました。

「どうせ言ってもしかたがない」、こんなことを思っているのは自分だけなのだからと無力感にとらわれてしまいうになりませんが、決してそんなことはない。子どもたちを競争に追いつかせない。これはありませぬ。「おかしい立て、教職員を苦しめる全国学力テストが、何の問題点も語られず、決められたことだからやるのが当たり前」と、通常のスケジュールと同じように実施されてしまうことは許されませぬ。このテストが本当に子どもたちのためになるのか、これで真の学力がつかのか、子どもたちはどう感じているのか、保護者の心配や不安はどうなのかを大いに語っていききたいと思えます。

学力テストだけでなく、文科省やさいたま市教委は、『人事評価』『人間関係プログラム』『英会話』などさまざまなことを現場の声を聞かずにトップダウンで行なってきた。職場の忙しさ、疲れなどから、ともすると「どうせ言ってもしかたがない」、こんなことを思っているのは自分だけなのだからと無力感にとらわれてしまいうになりませんが、決してそんなことはない。子どもたちを競争に追いつかせない。これはありませぬ。「おかしい立て、教職員を苦しめる全国学力テストが、何の問題点も語られず、決められたことだからやるのが当たり前」と、通常のスケジュールと同じように実施されてしまうことは許されませぬ。このテストが本当に子どもたちのためになるのか、これで真の学力がつかのか、子どもたちはどう感じているのか、保護者の心配や不安はどうなのかを大いに語っていききたいと思えます。

三月で定年退職した浅井前埼教組委員長は、何事も「仕方がない」と言っていて、現実を「仕方がある」と考えて、みんなががんばることが大切だと言っていました。ひとりひとりが感じている「おかしい」「変だ」の声を束ねて、解決の方法を考えていくのが組合です。ぜひたくさんの方に組合に入っていただいて、みんなの力で「仕方がない」を「仕方がある」に変え、子どもたちも教職員も生き生きできる学校にしていききたいと思っています。

今年度もどうぞよろしくお願ひします。



第8回定期大会
5月24日(土)
13:00 受付開始
13:15 開会
KSビル 8Fホール
(サイサンビル)
大宮駅西口 旧17号沿い